

大切な小さな家ぞく

二年 水野紗良

わたしには、どうぶつアレルギーがあります。犬やネコが大すきなのに、さわると目が赤くはれて、かおもブツブツしてかゆくなります。どうしてこうなるのだろうと思います。とてもかなしいです。わたしには、どうぶつが大好きという気もちがたくさんあるのに。

わたしはようち園の時、お店でハムスターの本を見付けました。こんなかわいい生き物がいるんだと心がわくわくしました。わたしは、毎日本をながめて楽しみました。

ある日、「ハムスターをかいたい。」

と、お父さんとお母さんに言いました。でもすぐに、いいよとはいってくれませんでした。

どうぶつをかうということは、ただながめているだけではないからです。毎日お世話をしないといけないこと、そして、小さくても一つの大切な「いのち」であることを話してくれました。

そして、家ぞくとしてむかえるには、じゅんびがひつようであることを話し合いました。もし、とちゅうでかえなくなってしまうたら、わたしもかなしいです。

わたしは、アレルギーけんさをうけることにしました。ちゅうしゃは、こわいしきらいだったけど、ハムスターのことを考えるとがんばれる気がしました。

おいしゃさんに行った日、いたくて少しないてしまいました。でも、けんさのけつかを聞きに行く
と、おいしゃさんが、

「ハムスター、かってもいいよ。」

と言ってくれて本当にうれしかったです。

一年生になると、わたしは家ぞくにハムスターをおむかえしました。名前は、「きなこ」です。わたしは、今、お姉ちゃんといっしょにハムスターのお世わをしています。きなこは、いろいろなところに入ってねたり、手にのってごはんをたべてくれたりします。しぐさの一つ一つが本当にかわいいです。

わたしはある日、テレビでたくさんのハムスターがはの中にすてられているのを見ました。わたしは、それを見たとき、

(なんてひどいんだ。こんなにもかわいいハムスターをすてるなんて、しんじられない。)と思いました。もしかしたら、ごはんもたべられず、あつさやさむさでしんでしまうかもしれない。せつかく生まれきたのに、かわいそうです。ぜったいにゆるせません。

ハムスターのいのちは犬やネコにくらべると、とてもみじかいそうです。ハムスターは、たった一日で、わたしの一月分年をとると聞いて、とてもおどろきました。おわかれば考えるだけでつらいです。でも、わたしには小さくても大切な家ぞくです。さいごまでしあわせにすこせるようにそだてていきたいです。

きなこちゃん、うちにきてくれてありがとう。きなこちゃんのおかげでハムスターのかわいさを
知って、毎日楽しいよ。